

ロゴマットでチームPR

サッカー スカイアース 青木選手



帯広市出身で、社会人サッカー・北海道十勝スカイアースの青木瑠唯さん（25）が選手の傍ら、ダスキン（大阪）の代理店、登寿ホールディングスダスキン事業部・ダスキン北一やまざき（帯広、宮坂寿文社長）で今春からパートとして営業活動に奮闘している。チームのスポンサー企業でもある同社が手掛けるスカイアースのレンタルマットを売り込むことで、「チームのPRにもなる。地域に知ってもらおうと同時に会社にも貢献できたら」と話す。

ダスキン北一やまざきで奮闘

青木さんは帯広つつじが丘小から帯広第二中、札幌大谷高、玉川大に進学。開西つつじが丘Jrでサッカーを始め、プログレッション十勝のU12とU15でプレー。札幌大谷高在学時は全国高校選手権に出場している。東京大学リーグ2部の玉川大を卒業後は、東京の社会人チームを経て、今年帯広に戻った。

ダスキン北一やまざきは昨年、スカイアースのスポンサーになり、今年から選手への雇用も始めた。栗林尚悟営業部長は十勝からJリーグを目指すチームに「地元のスッカー選手の夢や目標になる」と話す。地域貢献活動の一環として、認知度を上げるために3種類あるスカイアースのマスケット

北海道十勝スカイアースのマスケットやロゴが描かれたマットを手に、「認知度を高められるように売り込んでいきたい」と意気込む青木瑠唯さん（右）。左はダスキン北一やまざきの栗林尚悟営業部長

トやエンブレムが描かれたマットを商品化。売り上げの一部をチームに寄贈している。

青木さんは、主に大型スーパーを中心とした契約企業のマットやモップ交換を担当。このほか「100枚のレンタル」を目標に、他のスカイアースのスポンサー企業を回り、商品のデザイン性や性能の売り込みに汗を流している。現役選手としてサッカー談議に話が弾むことも。平日は午前8時から午後5時まで働き、同7時から約2時間、サッカーの練習に励む。

新型コロナウイルスの影響で延期された道リーグは23日に開幕する。「十勝の人たちの期待も背負い、しっかりと準備していく」と表情を引き締める。

マットの問い合わせは、ダスキン北一やまざきへ電話（フリーダイヤル0120・20222888）で。

（北雅貴）